

山本 アグリ JOURNAL

2025年12月号



山本商事株式会社

No.308

本社：会津若松市インター西 29 番地
〒965-0059 TEL (0242) 24-4561 (代) FAX (0242) 25-0956
営業所：郡山市喜久田町卸一丁目 14 番地1
〒963-8681 TEL (024) 959-6631 (代) FAX (024) 959-6634

福島県内における最近の病害虫防除と対策

【タバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病 (TYLCV)】

● タバココナジラミ

- ・成虫の体長は 0.8 mm 程度、体色は淡黄色で白色の羽をもつ
- ・オンシツコナジラミと比較するとやや小型で体色が濃い
- ・幼虫は長さ 0.8~1.0 mm で全体が淡黄色、毛（分泌突起）が少なく、楕円形で背面がやや隆起する
- ・野外越冬はできないが、約 1 ヶ月は野外で生存可能

● TYLCV の感染が報告されている植物

・感染及び発病する植物

作物…トマト、ミニトマト、トルコギキョウ、リンドウ

・感染のみ（無病徵）

作物…ピーマン、ジャガイモ、インゲン、ペチュニア、ポインセチア、ヒヤクニチソウ、
チョウセンアサガオ

雑草…ハコベ、ウシハコベ、タカサブロウ、ノゲシ、ノボロギク、センナリホウズキ、ホソバ
ツルノゲイトウ、エノキグサ、ベニバナボロギク、ウサギアオイ、イヌホウズキほか

● トマト黄化葉巻病の対策

(1) 育苗・定植期の侵入・感染防止（入れない）

- ・ウイルス感染・タバココナジラミの寄生がないことを確認
- ・成虫の侵入防止

施設開口部に 0.4 mm 目合の防虫ネットを展張

反射資材、UV カットフィルムの活用

(2) 定植後の感染拡大防止（増やさない）

- ・発病株を発見したらすぐに抜き取り、土中に埋める
- ・タバココナジラミへの薬剤散布

薬剤抵抗性の発達しにくい気門封鎖剤・糸状菌製剤を活用

- ・黄色粘着板・テープによる成虫の捕殺

(3) 栽培終了後の蒸し込み・残渣処理（出さない）

(4) 施設内外の雑草や野良生えトマトの管理

【 ハスモンヨトウ 】

● ハスモンヨトウ

- ・卵は雌成虫の鱗毛で覆われた状態で、葉裏に卵塊で産み付けられる
- ・ふ化後 2 齢くらいまでは群棲して摂食する習性があるため、葉の表皮を残して白色のカスリ状に食害する。食べ尽くすと隣の葉に移動する。
- ・中齢以降分散し、加害量が多くなる
- ・6 齢幼虫は、体長 4 cm 程度になり、土中で蛹になる
- ・幼虫は広食性
野菜類、いも類、豆類、花き類、果樹、雑草を食べる
- ・露地での越冬可能場所は、関東以南の温暖地
休眠性はなく、耐寒性は低い。施設内であれば、東北でも越冬可能。
成虫が、台風などに伴い長距離飛来。
- ・西日本での年間世代数：4～6 回 福島：2 回
25°C 条件で、1 世代 39 日（卵 4 日、幼虫 19 日、蛹 14 日、羽化後産卵まで 2 日）

● 防除対策（耕種的防除法）

- ・卵塊や若齢幼虫の集団は、見つけ次第、捕殺する
- ・施設栽培の場合は、開放部（サイド、天窓、出入り口など）に 4 mm 目合のネットを張り、成虫の侵入・産卵防止に有効（ネットに産み付けられた卵塊により、ふ化幼虫が侵入する場合もある）

● 防除対策（化学的防除法）

- ・若齢幼虫のうちに、薬剤散布
- ・幼虫は葉裏や株元にいることが多いので、薬剤を丁寧に散布
- ・イチゴでは、BT 剤の効果が他の作物より低くなるので注意

【 水稲病害 紋枯病 】

● 伝染経路

前作での菌核が、夏から秋にかけて地上に落ち、地中で越冬し、田植え前の代かきで水面に浮かび上がる。分かつ期に、株元に菌核が付着し、稲の生長と伴に菌核は発芽して、葉のように病斑をつくり、しだいに上へ進展する。菌糸でとなりの茎へもひろがる。病斑上に菌核をつくる。

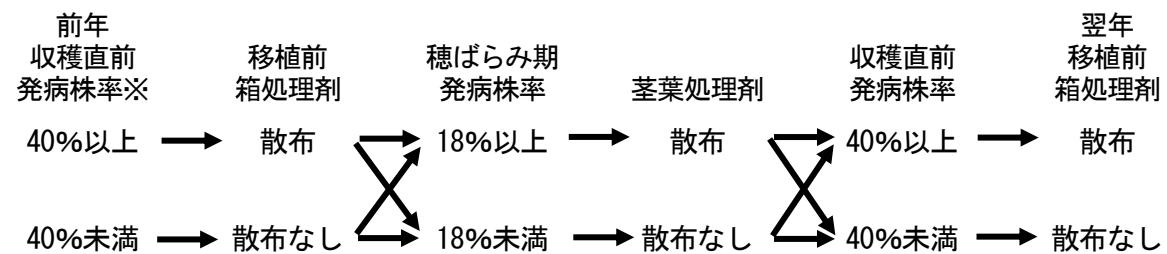
● 紋枯病の対策（耕種的防除）

- ・窒素肥料は適正量で
- ・密植や、過繁茂となる管理を避ける
- ・発生ほ場の機械作業を後回しにする

● 紋枯病の対策（薬剤防除）

減収率 5% 以下に抑える場合

※畦畔や水尻側の株を調査



（福島県農業総合センター作物保護科「最近の病害虫防除・管理の研究と今後の研究の方向」参照）

山本商事株式会社 技師 谷津 勝司